

2026年吉日

各位

## 案内のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は何かとご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

京都精華大学では、国際的な教育・研究プラットフォームである Moving Boundaries (MB) との共催により、国際シンポジウム・集中講座「人間科学と建築の未来 — 建築に活かす神経科学と環境心理学」を開催します。

本プログラムは、神経科学や環境心理学をはじめとする人間科学の知見を建築・デザインへどのように応用できるのかを探究するもので、Moving Boundaries が日本で初めて開催する国際プログラムです。建築やデザインを機能や造形の問題としてのみ捉えるのではなく、人間の経験や身体性、環境との関係性を出発点として再考し、より豊かで健康的な生活環境の創出を目指します。

期間中は、建築学、神経科学、心理学、人間科学、哲学、都市計画、インテリアデザインなどの分野を代表する国際的な講師陣12名を迎え、講義、マスタークラス、パネルディスカッション、ワークショップ、建築見学を実施します。参加者は25か国以上から70名を超える予定で、建築家、研究者、教育者、デザイナー、科学者、大学院生など、多様な背景を持つ人々が集います。

なかでも、建築理論家の アルベルト・ペレス＝ゴメス (Alberto Pérez-Gómez) 氏、ミラーニューロン研究の第一人者として知られる ヴィットリオ・ガレーゼ (Vittorio Gallese) 氏、環境心理学者の コリン・エラード (Colin Ellard) 氏をはじめ、建築・神経科学・哲学・心理学分野を牽引する研究者が登壇します。先進的な研究や実践が日本で発表・議論される貴重な機会となります。

また、京都市内の寺院や庭園、歴史的建築を訪れるフィールドワークも予定しており、京都ならではの文化や空間体験を通して、人間と環境との関係について多角的に考察します。

本プログラムを通じて、建築・デザイン分野と人間科学分野の新たな学際的連携を促進するとともに、京都精華大学における国際的な教育・研究交流のさらなる発展を目指します。

## 【開催概要】

### ■名称

Moving Boundaries × 京都精華大学

「人間科学と建築の未来 — 建築に活かす神経科学と環境心理学」

### ■会期

2026年8月3日（月）～8月7日（金）

### ■会場

京都精華大学 明窓館大ホール

（京都市左京区岩倉木野町137）

### ■内容

講義、パネルディスカッション、ワークショップ、建築見学ツアー、文化体験 ほか

### ■参加費

京都精華大学在学学生・教職員：無料（事前申込制）

学外参加者：Moving Boundaries Japan 2026への参加登録が必要（有料）

### ■主催

京都精華大学

Moving Boundaries

<主な登壇者>

### ■8月3日（月）

神経現象学と身体性

（Neurophenomenology and Embodiment）

アルベルト・ペレス＝ゴメス（Alberto Pérez-Gómez）

マギル大学名誉教授／建築理論家・建築史家

ヴィットリオ・ガレーゼ（Vittorio Gallese）

パルマ大学教授／神経科学者

村本 勝彦（Katsuhiko Muramoto）

ペンシルベニア州立大学名誉教授／建築家

---

■8月4日（火）

回復的デザインと場所への愛着

(Restorative Design and Place Attachment)

河井 容子 (Yoko Kawai)

イエール大学建築学部教授／建築家・研究者

コリン・エラード (Colin Ellard)

ウォータールー大学教授／神経科学者・環境心理学者

---

■8月5日（水）

脳・身体・環境 — 健康のためのデザイン

(Brain, Body, Environment: Designing for Health)

ヒューゴ・スパイアーズ (Hugo Spiers)

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン教授／認知神経科学者

ゲイレン・クランツ (Galen Cranz)

カリフォルニア大学バークレー校教授／デザイナー・社会学者

---

■8月6日（木）

永続性を超えて：記憶・現前・メディア化されたモニュメント

(Beyond Permanence: Memory, Presence, and the Mediated Monument)

ルイズ・ペルティエ (Louise Pelletier)

ケベック大学モントリオール校教授／建築家

アンドレア・ピノッティ (Andrea Pinotti)

ミラノ大学教授／哲学者

---

※プログラム内容および登壇者は変更となる場合があります。

詳細は公式ウェブサイトをご確認ください。

<https://www.movingboundaries.org/japanaug2026>

## 【Moving Boundaries について】

Moving Boundariesは、人間の生命を支える空間づくりをテーマに活動する国際的・学際的な教育研究コミュニティです。建築環境が人間の知覚や行動、健康、さらには場所における集合的な体験にどのような影響を与えるのかについて、科学者、建築家、医療・健康分野の専門職、デザイナーらが分野を越えて協働し、研究・教育・実践を推進しています。

現在、世界各国に450名を超える修了生、75名の専門教員、12,000人以上のフォロワーを有し、人と環境の健康に寄与するデザインと教育の発展に取り組んでいます。倫理的で生命中心（Life-Centered）、そしてサリユートジェニック（健康生成的）なデザインへの転換を掲げ、建築・デザインの新たな可能性を探究しています。

皆様に是非ご高覧いただきたく、pdfのリーフレットを添付いたしますので、貴社のウェブページにてご掲示いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

京都精華大学デザイン学部建築学科

学科長 岸川 謙介

京都市左京区岩倉木野町137

architec@kyoto-seika.ac.jp